

千里山線の電車大特集

「最初の電車」の謎が解けた！

十八回生の口羽竜二さんから「千里山線思い出の電車たち」のご寄稿を頂きました。昭和十三年頃から昭和六十年代迄ご自身が実際に乗ったに電車について、多数の写真を添えて書かれています。

千里山線の開通は大正十年（四月 十三・豊津間、十月 千里山迄開通）「千里山70年のあゆみ」には「最初の電車」の写真（阪急電車提供）が掲載されておりますが、昭和十三年当時の「マッチ箱」P-5型とは違うようです。

そこで大先輩の九回生飯島泰蔵さんに昭和七年からの「千里山線の思い出」を書いて頂きました。その時すでに「最初の電車」の姿はなくP-5型が新車として活躍していたそうで、「最初の電車」がいつまで走っていたのか謎のままでした。

以前千里山ネットの主宰者小島功さんから千里図書館で「吹田を初めて走った電車」という講演会が開か

れて出席し、おもしろい内容だったので報告のブログを千里山会の皆様に紹介してくださいとのメールを頂いていたのを思い出しました。「姿を消した年」についても講演で触れられたと思うのですが、ブログにはありません。「最初の電車」の模型の鮮明な写真があり、珍しいポールや緩衝器の細部が判ります。

<http://blog.goo.ne.jp/senriyama-net>

06年10月30日付ブログ

事務局でも少しばかり「最初の電車」について調べました、「京阪神急行電鉄五十年史」で写真と共に

「大正十年四月一日、十三・豊津間の電車運転を開始した北大阪電鉄は、当社の三七型小型ボギー車と同型のP-1型八両を以て誕生した。」

この車輛の艤装は当社の池田工場で行われた。」とあるのを見つけたのですが、いつまで千里山線を走っていたのかの記述はありませんでした。

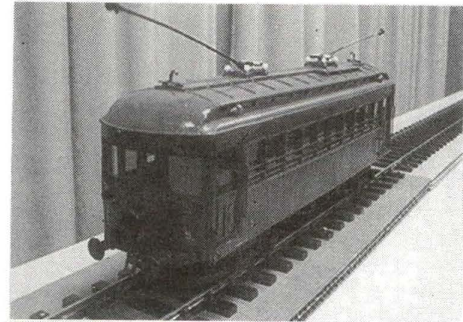
ちなみに原型となった阪急電車の三七型は、戦後も白帯を巻いて進駐軍専用車として活躍、昭和二三年に能勢電鉄に転籍しています。

そしていよいよ二十回生浅野倉平さんから「千里山線を駆けた電車」(く北大阪電気鉄道)が届きました。口羽さんのご寄稿とは全く無関係です。口羽さんの原稿にもある正雀車庫での「阪急鉄道フェスティバル」参加で見た「最初の電車」の、ネルに興味が惹かれあちこち資料を集められました。謎の「姿を消した年」は昭和四年、十三・京都間を走る新京阪の開通に伴い電圧が六〇〇Vから一五〇〇Vに変わった為、それまでの間に段階的に全車両が他社に譲渡されました。代わりに大正十四年から走り始めたのがその後三十年間以上走り続けたお馴染みの「マッチ箱」P-5型です。

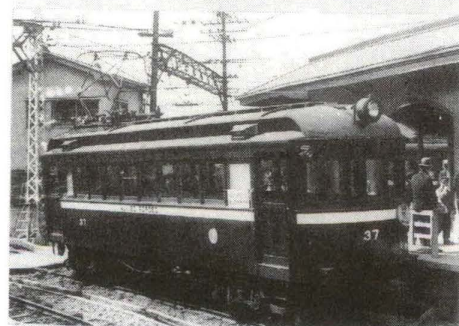
浅野さんには連載企画として引き続き「千里山線を駆けた電車」をご執筆頂くことになりました、よろしくお願います。

「最初の電車」が走った期間は大正十年から昭和四年までの僅か九年間でした。飯島さんより先輩の方々の中で、実際に「最初の電車」に乗られた貴重な経験をお持ちの方がおられることと存じます。ぜひその思い出をご寄稿頂きますようお願いいたします。

参考文献
 京阪神急行電鉄五十年史 京阪神急行電鉄(株)
 鉄道ピクトリアル (特集)阪急電鉄 平成10年12月



「最初の電車」模型



「最初の電車」原型 三七型